

申4号

暴力行為撲滅に向けた申し入れ 交渉を行う!

第1項 暴力行為が発生した都度、事象を共有化し自らも注意するために、社員への情報提供を行うこと。

第3項 暴力行為が発生した場合は、JR東日本として従来通り毅然として対応すると共に、支社に対応期間を設置し、病院、警察、裁判等の対応を社員一人で行わせないこと。

【妻森園】

- 暴力行為ゼロを目指し、トラブル対応ハンドブックに則り取り組んでいる。
- 年間の暴力行為件数が減っているからといって良いとは考えていない。どのような方法なら旅客からの暴力行為が撲滅できるのか現状を調べ検討し努力していく。

**暴力行為発生のお知らせは、当該支社内のみでなく12支社に行うことを要請！
民事、刑事裁判に関わらず会社としてフォローしていくことを確認！**

第2項 毎日発生した暴力行為の件数をホームページに掲載し、会社として暴力行為を根絶するために社会へ発信すること。

【妻森園】

- 日本民営鉄道協会と一体なって取り組むことが重要と考える。
- 暴力行為ゼロを目指し、問題意識をもって発信方法について検討している。

第4項 輸送障害等の異常時における暴力行為を防止するため、当該箇所への応援体制を確立し旅客案内は2名以上で行うこと。

【妻森園】

- 旅客案内者が暴力行為を受けない環境をつくらなければいけないと考えている。
- 今まで蓄積していたノウハウを活かし、人員配置については検討していく。

異常時の旅客からの暴力を防ぐために2名以上の体制を要請！

第5項 警察直通の非常通報装置を全箇所に配置すること。また非常通報装置を取り扱う訓練を全社員に行うこと。

【妻森園】

- 防犯設備は支社において優先順位をつけて配置し、使用方法についての必要な訓練は行っている。
- 催涙スプレーなどの防犯備品は、社員の判断で身に危険が迫った時に活用する。

非常通報装置を含めた防犯機器の設置を計画的に進めることを確認！

第6項 週末や年末年始などの酔客が多い時期や時間帯にガードマンを増強して配置すること。

【妻森園】

- 各支社が現場長に十分なヒアリングを行いながら配置しているので、現場長からの要請を踏まえて配置をおこなっている。
- 緊急時でガードマン手配ができない場合は支社等から応援を出して対応する。

**暴力行為の撲滅に向けて職場から議論を巻き起し、
安全で安心して働ける職場をつくりだそう！**